

環境に配慮した街づくり

蜂須 直巳議員

・質問 次の点について伺いたい。

市内小中河川の改修に合わせてビオトープ事業を推進してはどうか。

・答弁 (都市整備部長) 経済環境部長) ビオトープの整備には、一定規模の空間が必要であり、羽生市で実施しているような小規模な用排水路の整備の場合、新たな用地が必要になること。また、高度な管理が必要になること等幾つかの課題もある。

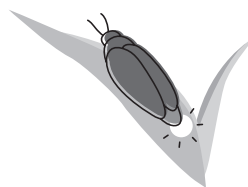
・質問 次の点について伺いたい。

キャッセ羽生の水場をホテルの生息できる水辺空間に改修してはどうか。

今後、費用対効果の観点も含め検討していきたい。

公共施設のビオトープについては、平成六年度に学校ビオトープとして、村君小学校に設置し、多くの成果を得ているところである。今後は、現在建設が進められている汚泥再生処理センターに設置を予定している。

また、現在ISOを取得している企業が十二社あり、既にビオトープを整備している企業もあることから、これらの企業を中心に参加を呼びかけていきたい。



その他の質問

・手話通訳派遣事業の制度化について

・財政対策について

理由により難しい状況である。今後、ホテルの生息や習性の研究、費用面の検討を行っていききたい。

「はにゅう再創プラン21」について

大貫 慶議員

・質問 次の点について伺いたい。

羽生再創プラン21について、財政部門及び教育部門についての計画はあるのか。

また、再創とは、どういう状況、状態になった場合を想定しているか伺いたい。

・答弁 (企画財政部長・教育

長) 羽生再創プラン21のうち財政部門については、当初財政改革会議を立ち上げ、これを市税・交付税等自主財源確保部会、公共事業の見直し部会補助金・交付金等見直し部会という三つの部会に分けて検討を進めてきた。

また、教育部門についても、教育問題研究会を立ち上げ、子どもの安全と地域社会の連携、学校の自己評価システムの確立、心の教育の充実、問題行動への対処、人権教育の充実という五つの項目について検討してきた。

しかし、これから自主・自立都市として再建を図っていくためには中期財政計画を策定していくことが急務であるため、新年度においてこれを策定し、市民の皆さんにもいろいろなお話をとらえ、説明、報告を行っていきたい。

次に、再創とはどういう状況、状態になった場合かについては、一つの判断指標として、経常収支比率があり、羽生市の数値は八十四・四%、県内で一番数値の高い蕨市が八十九・八%、一番数値の低い和光市が七十六・三%である。

この内容については、あくまで翌年度の予算編成に反映できるものを取り上げ、検討を行い、提案していく方法をとっていたため、五カ年、十カ年といった計画は策定していない。

これは、数値が低いほど一般財源にゆとりがあることを示すものであり、八十%を目標に考えている。

もう一つの指標として、公債費比率があり、県内では羽生市が一番高く十八・六%、深谷市が一番低く三・九%である。当面市としては、全国都市平均の十六・五%を一つの判断基準に置き、これを目標に取り組んでいるところである。

ある。